

神奈川からつくる、相模原の未来

おだ たか ひ さ

小田 貴久

神奈川県議会議員

県政報告書 Vol.1

〒252-0143 相模原市緑区橋本6-17-3 広木ビル1階-2

TEL042-703-8858 FAX042-703-8859 Email sagamihara@oda-takahisa.net

小田貴久は「かながわ未来・神奈川県議団」に在籍しています。

令和5年度は環境農政常任委員会と安全安心なまちづくり特別委員会、予算委員会に所属しています。

環境農政常任委員会①

「花の万博」GREEN×EXPO2027が横浜で開催!!

2027年に横浜市で国際園芸博覧会が開催されます。BIE(博覧会国際事務局)認定の「万博」として、国内では7度目の開催を目指して準備しています。

開催経費として会場建設費が320億円、運営費が360億円と見込まれる中で、県単体では補助金として21億円が想定されています。

対して経済効果としては、有料来場者数1,000万人、金額ベースで7,310億円が試算されており、会場建設等インフラ投資の観点や、インバウンドを含めた観光や購買による波及効果の観点からも、全庁横断的な県の取り組みが求められます。

今回、国際園芸博覧会の機運醸成のための補正予算が計上されましたが、県民に知ってもらうだけでなく、国内外へのPRが重要です。私もインターネットを通じて植物に関心を持ち、コロナ禍で増加したとされる室内で植物育成を楽しむ愛好家の一人です。SNS等を通じた新たな園芸ファン層の掘り起こしも、有料来場者1,000万人を実現するためには不可欠です。

様々な場面でこの「万博」の情報に触れさせる取り組みは、機運醸成として大変重要な観点であると提言いたしました。



小田貴久の
県政活動をお届け!



ホームページもご覧ください

小田貴久

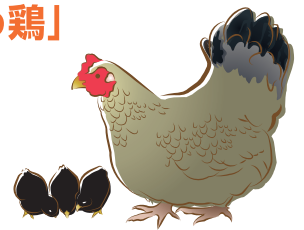
検索

WebSite <https://oda-takahisa.net/>

BLOG <https://ameblo.jp/i-love-sagamihara>

環境農政常任委員会②

知っていますか? 県産地鶏「かながわ鶏」



地鶏といえば比内地鶏や阿波尾鶏などがありますが、本県には地域由来の在来種がありませんでした。県では肉用鶏の開発研究を行ない、平成28年に「かながわ鶏」と命名し、供給の安定化、ブランド力の向上等に取り組んでいます。

しかし「かながわ鶏」を飼養できる認定生産者は8戸、出荷数が7,000羽の現状では、なかなか県民の口に届くことはありません。県では今後、目標数である20,000羽を出荷するため、認定生産者を増やす取り組みをすることですが、それでも県全体の鶏肉消費量から見れば、1%にも満たない数字です。

県内での取り扱い飲食店、食肉販売店の数はともに少なく、効果的に戦略的に販売する必要があります。今回の6月補正予算では、この「かながわ鶏」を美味しくするための費用が計上されましたが、私たち消費者の姿が見えてきません。「鶏が先か卵が先か」ではありませんが、「かながわ鶏」のブランド強化・向上には、出荷数を増やしていく取り組みとともに、消費者からの需要を喚起していくことが重要です。

出荷数を増やすから消費者のもとに届くのか、消費者が食べたいから出荷数が増えていくのか。現在は戦略的に取り組むことができていないと、担当局の姿勢を問いました。

プロフィール

1982年(昭和57年)4月9日生まれ/相模原協同病院生まれ
橋本幼稚園、橋本小学校、旭中学校、県立相模原高校、
中央大学法学部卒

大和証券(株)で資産コンサルタントを経験後、
衆議院議員 本村賢太郎事務所・秘書

29歳で相模原市議会議員に当選、

以降3期まで連続当選

2023年神奈川県議会議員選挙 初当選

【趣味】テニス、宝塚歌劇団などの舞台鑑賞

【家族】妻、娘、犬(ペキニーズ)

